

CHAPTER

03

農林水産業における
生産体制の再構築（畜産業）

第3章 農林水産業における生産体制の再構築（畜産業）

目指す姿(5年後)

- 比婆牛や神石牛などの広島和牛に加え、特徴のある乳製品などが価値の高い食資産として県民や観光客に喜ばれ、広島を代表する食のひとつとして認識されています。
- 畜産経営体においては、生産体制と労働環境が整った収益性の高い企業経営が確立されています。

目指す具体的な状態

- 和牛については、これまで進めてきた比婆牛のブランド化の取組が神石牛など広島和牛全体に広がり、それぞれの和牛についてその特徴を活かしながら、「おいしい！広島」の代表的な食資産としての価値が高まっています。
- 広島和牛の価値の高まりに対応して、繁殖経営体、肥育経営体、流通事業者、飲食店の間のバリューチェーンが強化され、生産力の向上が図られています。
- また、和牛を含む畜産全体においては、飼料の生産拡大やスマート技術の導入等により、経営環境の変化に対応可能な経営基盤を構築し、安定した生産が行われています。
- さらに、和牛以外についても、高い技術力によって生産・加工された畜産物が、「おいしい！広島」に位置付けられる食資産としての価値が高まっています。

目指す姿の設定の考え方

- 広島和牛の中でも高いブランドポテンシャルを持つ比婆牛に注力し、高級飲食店での提供や流通体制の整備を進めてきた結果、比婆牛の認知が高まり、ブランド力の向上が図られてきました。
- 今後は、比婆牛の取組を他の和牛に展開し、広島和牛全体のブランド価値を高めるとともに、畜産経営体の経営力を向上するなど生産体制の充実が求められています。
- また、本県は和牛生産以外にも、養鶏や養豚、酪農も盛んに行われ、豚肉や牛乳などの畜産物やその加工品が生産されています。
- そうした食資産を磨き上げることで、「おいしい！広島」の魅力向上に貢献することが求められています。

施策の推進方法

- ブランド力強化に向けては、飲食や流通事業者などバリューチェーンを構成する事業者とともに、情報発信を強化しながら、広島和牛の流通拡大に取り組んでいきます。
- また、経営の体質強化に向けては、畜産関係団体と連携し、需要に応じた生産体制を確立するとともに、飼料の生産拡大など各地域の課題解決に向けた取組を推進します。

I 持続可能な広島和牛生産体制の構築

1 これまでの取組の成果と課題

(1) 広島和牛ブランド化の取組

- 比婆牛のブランド力の強化については、「おいしい！広島」プロジェクトとも連動し、広島市内の高級飲食店に対し、歴史や美味しさに関する科学的な裏付けを説明するセミナーや交流会を開催し、比婆牛の利用拡大につながるフェアに参加を促しました。また、比婆牛の流通体制を構築した結果、令和7年までに比婆牛を常時取り扱う店舗は11店舗にまで増加し、県民への認知が一定程度広がっています。
- 比婆牛については、これまでの取組により高まった需要に対応できる流通量を確保しながら、提供店舗数の拡大に取り組むとともに、これまで蓄積してきたブランド化のノウハウを他の銘柄牛に展開し、広島和牛全体のブランド力強化に取り組む必要があります。

※ 詳細は、98ページに掲載。

(2) 生産基盤の強化

- 肉質・肉量共に優れた優秀種雄牛「花勝百合」の造成により、*県種雄牛の利用が進み、広島和牛の供給を増やすことができました。一方で、「花勝百合」は大型の種雄牛であることから難産を回避するため、他県種雄牛を選択する生産者も認められました。
- 比婆牛のブランド力向上の効果を畜産経営に反映させるため、料理人と畜産経営の双方向の交流会や研鑽会で仲間づくりを進めたところ、肥育経営体における共感が高まったものの、子牛の取引価格が高くなるなどの効果までは至っておらず、繁殖経営体への浸透は一部にとどまっています。
- また、酪農経営体は重要な肉用牛の生産基盤でもあることから、和牛受精卵を製造し利用を推進することで和牛増産を促すとともに、新技術による受胎率の向上や受精卵移植師の養成を進め、受精卵移植に取り組みやすい環境を整えることで、酪農経営体の収入向上を図ってきました。
- さらに、酪農経営体で生産された和牛子牛が県外流出しないよう、酪農経営体から肥育経営体へ和牛子牛を確実に取引する「供給協定」の取組を進めたところ、広島血統子牛全体の約2割弱に相当する和牛子牛が、県内の肥育経営体で活用されています。
- 一方で、より高価格で取引される可能性がある市場取引を望む酪農経営体が増えてきたことから、供給協定に対する支援内容を、受精卵価格を軽減する仕組みから、協定締結肥育経営体への販売実績に応じて支援する仕組みに変更し、より多くの経営体に参加しやすくなるよう見直しました。

2 考慮すべき情勢変化

- 和牛の遺伝的改良の進展により全国的に*脂肪交雑偏重の高品質化が進んだ結果、ブランド間の違いが見えにくくなり、従来の肉質中心の差別化から牛肉食味や生産効率など新たな価値軸への転換が求められる段階へと変化してきています。

3 目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 比婆牛のブランド化によって高まった*広島血統和牛のプレゼンスを生かし、神石牛などのブランド戦略に波及させることで、代表的な食資産として「おいしい！広島」を支え、広島和牛全体の需要拡大につなげるとともに、拡大した需要に対応できるよう、人工授精や受精卵移植などにより生産体制を強化することで、生産量の増加と流通量の確保に取り組めます。



図1 目指す姿の実現に向けた取組の方向イメージ

4 具体的な行動計画（具体的な取組内容）

（1）広島和牛ブランド化の取組

比婆牛のブランド化によって高まったプレゼンスを生かし、神石牛などのブランド戦略に波及させることで、広島和牛全体の需要拡大につなげます。

※ 詳細は、101 ページに掲載。

(2) 生産基盤の強化

子牛価格や枝肉価格の向上を実現することで、生産者が広島和牛を生産するメリットを実感し、生産拡大につながる環境を整備します。

ア 繁殖経営

- 広島血統子牛の生産の拡大を目指し、関係団体と連携して、消費者および生産者のニーズに応じた種雄牛の造成を行い、生産に携わる人工授精師などに対してブランドの取組や県種雄牛に関する情報を積極的に発信し、県種雄牛の授精促進や雌子牛の保留促進を図ります。

イ *酪農経営

- 経営力強化に有効な和牛受精卵移植に取り組むやすい環境を整備するため、受精卵の生産・供給、受精卵移植師の技術向上や研究機関で開発された受胎率や、性判別や過大子の防止など、生産性向上に資する技術の導入を進めます。

ウ 肥育経営

- 広島血統和牛生産のバリューチェーンを強固なものとするため、ブランドの取組の成果や料理人の評価を伝え、参加を促す取組を進めるとともに、広島血統子牛が確実に肥育され、県内に安定供給されるよう、「供給協定」の取組拡大を図ります。



図2 広島血統を引き継ぐ県種雄牛の造成と活用イメージ

5 指標

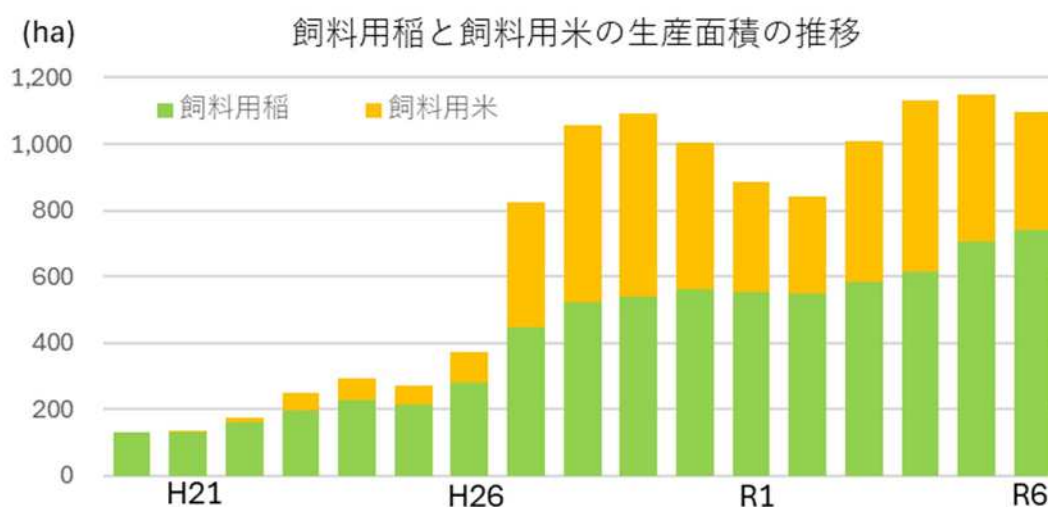
指標項目	前計画策定時 基準値(R1)	現状値 (R6)	5年後の目標値 (R12)
広島血統和牛の取引額（広島食肉市場） ＜ビジョン指標＞	9.3 億円 (R2)	8.6 億円	12.4 億円
<p>（目標設定の考え方）</p> <p>広島和牛を牽引する比婆牛や神石牛等の広島血統和牛が、県民や観光客に対して価値の高い食資産として認知が高まっている状態と、その需要の増加に応じた生産が実現している状態として、目標を設定しました。</p>			
広島血統和牛（比婆牛、神石牛等）の生産頭数	—	1,151 頭	1,460 頭
<p>（目標設定の考え方）</p> <p>広島血統和牛のブランド化進展に伴い、拡大する需要に対応した供給量を確保するため、目標値として設定しています。</p>			

Ⅱ 自給飼料の生産拡大等による畜産経営の体質強化

1 これまでの取組の成果と課題

(1) 自給飼料の生産拡大

- 畜産経営の経営安定を図るため、飼料の生産及び利用の促進に向けて、飼料の生産・収穫を担う*コントラクター組織の育成と機械などの共同利用を促進しました。
- *耕畜連携を進めることにより、農用地への家畜排せつ物由来の堆肥の還元、飼料用稲、飼料用米及び牧草の生産や稲わらの利用促進、放牧等、土地基盤に立脚した生産構造への転換を図りました。
- 酪農及び畜産の生産者団体が行う飼料用稲を活用した*TMR製造・供給の取組を支援し、増頭と連動した草地基盤の確保が容易でない地域における再生産可能な酪農・肉用牛産地のモデル的取組に位置付けられるまで発展しました。
- これらの取組により、県内の飼料用稲の生産面積は年々拡大しています。
- 一方で、規模拡大に経営リソースを集中してきた多くの経営体においては、飼料生産機械の投資コストの確保、効率的な飼料生産可能な好条件の農用地確保、収穫された飼料を保管する施設用地の確保などが整わず、自給飼料生産に向ける労働力確保が困難となっており、飼料の生産拡大は進んでいません。



(2) 和牛の生産に関わる経営体の育成

ア 経営力の向上

- 経営発展を目指す経営体を対象に、経営コンサルタントや税理士、中小企業診断士などの専門家を派遣して、法人化や経営計画策定を支援した結果、毎年1経営体程度が法人化しています。また、法人化をきっかけに新たな牛舎建設の計画に着手する経営体も出てきています。

指標	基準値 (R1)	直近実績値 (R7)	目標値 (R7)	達成状況
企業経営体数	2経営体	5経営体	5経営体	達成

イ 生産性の向上

- 畜産GAPやHACCPなどの考え方による生産工程管理導入の取組については、指導員の養成や経営体を対象とした導入事例研修会などに取り組んだ結果、大規模経営を中心として生産工程管理の必要性への認識が高まっているものの、中・小規模経営では、導入が進んでいません。
- スマート農業について、畜産分野では搾乳ロボットやクラウド型の生産管理システム等、酪農分野での導入が先行していましたが、肉用牛分野においても多頭化する繁殖牛の管理に対応するための導入が始まっており、人工授精や分娩などの繁殖管理、子牛のほ育作業での活用が進んでいます。
- また、ひろしま seedbox「酪農経営における生乳生産量の向上と効率的な和牛繁殖管理技術」の取組において、個体行動センサー、エサ寄せロボット、牛舎環境制御など、先進的な複数の機器を組み合わせ、それらを一元的に管理するプラットフォームが開発されました。

ウ 牛舎など経営資源の確保

- 畜産の独立新規就農は、初期投資の大きさや専門技術と幅広い知識が求められるなど、経営リスクが大きく、多くの困難を伴うことから、状況によって進展が滞ることが多くあります。
- 後継者不在の経営体の牛舎、家畜排せつ物処理施設、水源などの経営資源を、県内の肥育経営体等が取得するなど、第三者による経営継承が顕在化しています。

(3) 牛乳や鶏卵などの畜産物の安定供給の確保

- 酪農、養鶏、養豚など、安全・安心でおいしい畜産物の安定的な供給を行う畜産経営体に対し、畜産クラスターや各種支援事業を活用して、畜舎や畜産物処理施設、堆肥舎の整備などを支援することで経営体の発展を促すことにより、中山間地域の農業経済の循環や雇用創出などの活性化を図ってきました。将来にわたってこれらの役割を継続できるよう、より持続性の高い経営体としての発展が求められています。

2 考慮すべき情勢変化

- 畜産経営体の多くは輸入飼料の依存度が高く、為替相場、物価高や海上輸送などの社会情勢の変化に大きな影響を受けています。
- 高齢化や後継者不足などに加え、畜産経営環境の悪化等の影響により、想定を超えて畜産経営の離脱が進んでいます。
- 県内で生産されたチーズ等の乳製品は、その品質自体に加えて生産者による製造・販売の取組や、飼料自給、放牧飼育など、自然環境への配慮や資源の有効活用に資する取組が国内外から高い評価を受けています。

3 目指す姿の実現に向けた取組の方向

- 畜産経営の体質強化に向け、スマート技術の導入や自給飼料の確保などにより、収益性が高く外的要因の変化に影響を受けにくい企業経営体の育成に取り組むとともに、畜産経営者の確保に向け、企業経営体からの独立経営の開始や経営継承を進めます。

4 具体的な行動計画（具体的な取組内容）

（１） 自給飼料の生産拡大

ア 牧草などの飼料の確保

- 牧草などの飼料の確保を最大化するため、気候変動や栽培効率等の諸課題に対応した改良品種の導入や、栽培手法の再確認や獣害への対応等により、単位面積当たりの収量増を図るとともに、その成果の他の畜産経営等の波及を促進します。

イ 飼料生産の省力化・効率化

- コントラクター組織やTMRセンターの活用による作業の外部化・分業化を進めるとともに、機械やスマート農業技術の導入を支援します。

ウ 耕畜連携の強化と水田の有効活用

- 飼料用稲や飼料用米の生産拡大を進めるとともに、耕種経営と畜産経営のマッチングやコントラクター組織の育成、家畜排せつ物の堆肥化・還元による地域内資源循環型の飼料生産体制の構築を推進します。



図1 自給飼料の生産拡大のイメージ

(2) 和牛の生産に関わる経営体の育成

ア 経営力の向上

- 企業経営体から独立経営への開始などに対して、専門家の派遣等により、経営発展ビジョンの作成や経営体の発展段階に応じた課題の解決など、経営発展意欲の醸成を図ります。
- 経営継承、新規就農や企業化には多額の資本と長い経営サイクルが必要なことから、発展段階ごとに生じる課題に対応した集中的な支援により、着実なステップアップを図ります。また、新規就農者の確保から育成、就農後の定着までを一体的に支援することで、地域の核となる担い手の育成と人材育成の好循環の仕組みづくりに取り組みます。

イ 生産性の向上

- 畜産GAP・HACCPなどの考え方による生産工程管理の導入により、作業手順の標準化、記録・見える化を通じた経営マネジメントに優れた運営を実現し、安定した雇用の確保が可能な、健全な経営体制への発展を促します。
- 管理作業の省力化につながるスマート農業の導入に向けて、ニーズに応じた機器の導入・活用を推進するとともに、県内先進事例の横展開により、他の畜産経営への波及を図ります。
- 研究機関と連携し、デジタル技術などを活用しながら広島血統和牛の改良や飼養管理方法の改善に寄与する技術開発を進めます。

ウ 牛舎など経営資源の確保

- 後継者不在の経営体の情報及び他の経営に資源を譲りたい・譲り受けたいというニーズを的確に把握し、牛舎等の経営資源の有効活用に向けて第三者による継承等を含めたマッチングを支援します。

(3) 牛乳や鶏卵などの食の魅力向上への貢献と安定供給に資する経営強化

- 牛乳・乳製品、豚肉、鶏卵・鶏肉や蜂蜜など広島和牛以外の畜産物についても、季節の変化を楽しめる食資産として和牛と一体的に生産者や料理人の共感獲得を進めるとともに、「おいしい！広島」との連携や、広島県産応援登録制度を活用した小売店や飲食事業者とのマッチングを支援するなど、ブランド化や販路拡大を進めます。
- 経営の課題解決、経営力強化や生産性の向上に当たっては、飼育施設の改良・新設や環境負荷低減設備の導入、AIや自動化技術の活用や研究機関と連携した夏季の生産性低下抑制技術の開発など、多様な施策を有効に組み合わせて支援します。



図2 経営体の育成のイメージ

5 指標

指標項目	前計画策定時 基準値(R1)	現状値 (R7)	5年後の目標値 (R12)
新たに自給飼料増産対策に取り組む経営体数	—	0 経営体	7 経営体 (R8)
<p>(目標設定の考え方)</p> <p>畜産経営の体質強化に向け、経営環境の変化に対応した自給飼料増産が進むよう、増産対策について先導的に取り組む経営体の確保を目指して目標値を設定しました。</p>			
広島和牛を飼育する企業経営体数	2 経営体	5 経営体	15 経営体
<p>(目標設定の考え方)</p> <p>持続可能な広島和牛生産体制の構築に向けては、明確な経営ビジョンを持った企業経営体が増加することが重要であるため、指標として設定しました。過去 5 年間で企業経営体が 3 経営体増加した実績を踏まえ、経営発展を促進する支援策や経営体質の強化に向けた取組を充実させ、R12 までにさらに 10 経営体増加させることを目指し、目標値を設定しました。</p>			